



好きな分野から 勉強を始め 地球への興味広げて

地学

国際地学オリンピック（通称IEESO: International Earth Science Olympiad）は、2007（平成19）年に第1回大会が韓国で、2016（平成28）年に第10回大会が日本（三重県）で開催されました。2023（令和5）年は8月に第16回大会がオンラインで開催される予定です。

地学オリンピック日本委員会では、IEESOに派遣する日本代表選手4人を選抜するため、毎年12月から翌3月にかけて、日本地学オリンピックを開催しています。1次予選はオンラインで実施され、毎年2千人弱の生徒が受験しています。IEESOの出場資格は高校生に限られますが、

国内予選は中学生以下でも受験が可能です。予選の出題範囲は高校で学ぶ「地学基礎」とし、地質、固体地球、海洋、気象、天文、総合の6分野が

ら出題されます。地学は分野が多岐にわたるので、苦手分野をつくらないことが大切です。地球上のさまざまな現象は複雑に関連し合い、そこに境界はありません。自分の好きな分野から勉強を始め、地球への興味を広げていくことが予選通過のポイントです。

1次予選を通過した成績上位約200人は、全国の会場で開

2016年に日本で開催した第10回大会に参加した生徒とボランティア

2次予選の成績上位約60人が、3月に茨城県つくば市で開催する本選に参加できます。地学オリンピックでは、女子生徒のより積極的な参加を期待しており、本選出場者のうち最低10人は女子生徒となるよう、上位60人に追加する形で枠を設けています。本選では、筆記試験および岩石などの鑑定試験を行い、最終的には本選成績上位10人の金賞受賞者の中から英語ディベートと面接によって、IEESOの日本代表選手4人を選出します。

本選の運営には地学オリンピックのOB・OGが積極的に協力してくれています。日本全国から参加する地学好きの受験生たちは、生徒同士だけでなく、こうしたOB・OGとも交流を深めています。

（澤口隆・特定非営利活動法人地学オリンピック日本委員会・事務局長）

